

第25期 岡山県産業教育審議会 第1回会議（概要）
平成21年12月24日（木）13時30分～15時30分 県庁3階大会議室

1 開会

○挨拶（教育委員会）

- ・産業教育審議会は昭和26年の発足以来、本県の産業教育の充実に大きな役割を果たしている。
- ・新しく示された高等学校学習指導要領では、今後の職業教育において「将来のスペシャリストの育成」、「地域産業を担う人材の育成」、「人間性豊かな職業人の育成」の3つの観点が重要であると示された。
- ・一方では、産業構造や就業構造の大きな変化とともに、昨今の世界的な経済危機の影響等により、高校生をめぐる就職事情も著しく厳しい状況になってきている。
- ・時代の進展に対応した魅力ある産業教育、本県ならではの個性ある御提言をお願いしたい。

2 委員紹介（事務局）

3 産業教育審議会について（事務局）

- ① 産業教育審議会について
- ② これまでの岡山県産業教育審議会（審議主題）について
- ③ これまでの建議を受けての施策について

4 会長及び副会長の選出

5 議事

（1）審議主題及び審議の進め方について
（事務局）審議主題（案）について

「新たな時代に対応したスペシャリスト育成のために」とし、具体的な検討事項として2点。

- ①就職環境の変化に対応した専門教育の在り方について
- ②産業界と連携した地域産業の担い手育成の在り方についてとしたい。

（事務局）今後の審議の進め方

- ・審議の日程について
- ・専門委員会の設置について
- ・企業や学校に対するアンケート調査の実施について

（委員）平成22年の12月に建議する計画だが、12月という予算編成の細かい準備をする時期ではないかと思う。建議に基づいた施策を予算に反映することを考えると1ヶ月ほど前倒しする必要はないか。

（事務局）審議会での御意見を参考に、平成23年度予算にすぐに直結できるものとそうでないものとの整理していきたい。専門委員会等も含めて一定の時間をかけて調査研究する必要があるため、最短でも建議は12月と考える。その中で、2回め3回めでの御意見等も踏まえながら、可能なものについては先取りしていきたいと考えており、できればこの日程で進めさせていただきたい。

（委員）アンケート調査を実施するという点については必要であると思うが、それにプラスして直接、高校現場の先生や高校生、あるいは先輩の皆さんの心配している就職事情、あるいは企業の事情等々、それぞれの立場の代表の方から御意見をいただくような機会もあっても良いのではないかと思う。

（事務局）今御意見いただいたことに関しては、専門委員会の方で、専門学科や総合学科の校種の代表の方に集まっておいただき、それぞれの現状や御意見も集約させていただいたものを審議会の方に報告させていただけたらと考えている。

- (委員) 了解した。審議会委員の方もそれぞれスケジュール的に厳しいが、機会があれば専門委員会の審議の中に入れていただくような機会があればありがたい。
- (会長) 審議主題について高校の各専門学科等の状況と課題を把握する必要があることから、専門委員会を設置することは有意義であると考えているが、いかがか。
- (会長) アンケートの実施について、採用側の企業の意識を把握したり、学校の意識との差を検証するために調査を行うということで有意義であると思うが、いかがか。
- (会長) 最近の社会情勢は相当変わっており、企業側の考え方も変わっているのではないかと思われる。なお、専門委員会の委員の選出と、アンケートの内容については、後ほど諮りさせていただく。

(2) 審議 事務局説明

- (会長) 審議主題について、本日は検討事項①②について全般的な御意見をいただきたい。
- (委員) 検討事項①の「就職環境の変化に対応した専門教育のあり方」について、雇用をめぐる状況は、失業率が徐々に回復に向かってきたと思ったら、今年の終わりから急激にまた悪化。新たに社会に出て行こうという生徒にとっては、求人倍率が1倍を下回ってしまうと、席の数が足りないということで、大変な変化となっている。
- 一方で企業の方からすると、昨年の新卒者の就職活動の時には、大企業はさておき中小零細の企業はなかなか新卒者を採ることは困難だった。それが一瞬一年で全く逆の格好になってしまった。ここで、「就職環境の変化に対応した」という捉まえ方を、短期的なものの中長期的なものに分けて審議していかないと、訳がわからなくなるような気がした。
- (委員) 厳しい状況が続いている。そうした中で、国が示した、スペシャリストの育成、地域の産業を担う人材の育成、また人間性豊かな職業人の育成という3つの視点は非常にいいことだと思う。激変していく社会の中で、従来の資格とか学歴とかそういうものだけではなく、変革の激しい時代の中で柔軟に生きていける能力がこれからは必要であると思う。就職の面接会などを見ると、厳しい中でもしっかりと前向きに柔軟に仕事に取り組んでいるということが、単に就職ということだけではなく、その後、生きていく上でも非常に重要な力であると感じている。そういう能力をいかに学生時代に身に付けていくかということが非常に重要だと思う。そのためには、学生時代からいろいろな面で社会の動き等を見ながら自分なりに考えて行動していくということが求められており、それを教育としてどのように実践能力として授けていけるかが、重要な課題であろうと感じた。
- (委員) 求人の状況では私どもも本当に厳しく、採用数も残念ながら手控えざるを得ない状況で申し訳ないと感じている。先ほどの短期的な視点で「就職環境の変化」を捕らえると、今就職活動をしている生徒・学生に罪はなく、企業の方でも本当は採用計画があったものを手控えざるを得ない状況にあるということが多々あると思う。しかし、本当に欲しいと思うところにはなかなかいい人材が来てもらえないという状況もある。
- 自分はどのような業界・業態、あるいはどのような仕事を担当していくのかということなど、学生の間からもっと考えていただけるような専門教育の在り方が、今後普遍的に求められるのではないかと感じている。
- 一方で、安定的に採用等をしていくというのは企業側の責任だと思うので、学校と連携を取りながら、うまく学生をレールに乗せて、就職・採用・就職

・採用というスパイラルができるといいと感じた。

(委員) 私は繊維産業に携わっており、その環境の変化を考えたときに、審議主題にある「新たな時代に対応したスペシャリスト育成のために」というのは、新たな産業が日本でどうなっていくかということをもっと考えていかないといけないと思う。繊維産業で言えば、ここ20年で日本の繊維産業というのはほとんど壊滅状態。岡山県でも繊維の産地ということで、デニムとかワーキングとかいろんな種類のものを作っているが、現実にそれを今、岡山で作っているかということほとんどゼロである。結局、近くに人件費の安い中国があることによって、日本の産業構造がここにきて大きく変わってきている。今、すぐ目先の産業のことだけを見ていると、10年先にその産業が無くなっていったらどうするのか、ということである。日本がどういう形で生き残っていくかということ、これなら日本が中国に勝てる、勝てて生き残っていけるといいう方向性を見つけないと、教育の方針というのも出てこないのではないかと感じる。状況を踏まえずに産業教育を一生懸命やっても、何のための教育かということになる。日本の将来を考えた上で、「新たな時代」というのは具体的にどういいう新たな時代かということをもっと考えていく必要があると感じている。

(委員) 就職環境ということで、工業高校は地域差はあるものの比較的まだ良い状況であるが、コミュニケーション能力の不足している生徒は決まらない。しっかりと目的意識を持って、コミュニケーション能力が備わっている生徒は決まっている。そうしたことから言うと、検討事項①では、生徒にキャリア教育をしっかりと、規範意識やコミュニケーション能力、職業観を育成していくことが大切であると感じている。また、検討事項②について、教科の基礎的な知識・技術の上に実践的な能力を身に付けさせるためには、産業界と連携した育成が不可欠であると感じている。生徒にとっては、インターンシップや、職業能力開発協会から派遣してもらっている高度熟練者等による技術技能指導は非常に効果が大きい。また、教える側の教職員も専門的な研修が必要であるため、産業界の方にも御協力をいただきたいと考えている。

(委員) 前回は高等学校の専門学科の家庭科の先生方と、家庭科で育成できるスペシャリストとはどういうものがあるのか、かなりの時間をかけて話をした経緯がある。今回、高等学校の専門学科で育成するスペシャリストとは何かということ、スペシャリスト像というものを、教育界だけではなく産業界の方や行政の方など、様々な方との議論の中で具体的な像を描ければ良いと思う。そして、スペシャリスト育成のために、どんな変化がきても対応できるように普遍的に育成していかなければならないものなのか、今だからこそ必要なものなのか、アンケート調査の結果等を分析して専門学科でどんなスペシャリストを育成する教育を手がけることができるのか、一緒に考えていきたい。

(委員) 私は新入社員セミナーやマナーとかコミュニケーション講座などの公開講座を担当している。そうした中で、企業の方からも特にコミュニケーション能力育成のための教育の依頼が多い。また、昨年、高校の先生が私どもの職場に一年間研修に来られたが、実際に企業現場を体験してみて実務的なところのギャップがわかったと言われていた。そうした点から言うと、教える側の現場とのギャップをどう埋めるかということも必要だと思う。また、コミュニケーション能力の面では、コーチングや交流分析を使って研修を行っているが、関西では高校の先生方がこうした実践をかなりしていると聞いている。そうした実態も知ることができればと考える。

(委員) 審議主題の「就職環境の変化」への対応について、私どもで職業訓練校を持っているが、昨今の就職状況へ対応する場合も、あまりドラスティックに変更することは非常に難しい話になる。検討事項①であまり強く読み過ぎてしまうと極めて近視眼的な職業教育論になってしまう。特に今後の3つの視

点の中の「将来のスペシャリストの育成に必要な専門性の基礎・基本を一層重視する」という考え方と、いきなり「新たな時代に対応したスペシャリストの育成のために」として①が出てくるのはいかがなものか。もう一点、②の「地域産業の担い手育成」というのは良いが、「産業界と連携した」とテーマが与えられるともう手段を書いてしまっているような感じがする。また、岡山県の産業構造がどうなるのかというと、少なくともいろいろなステップ、レベルのスペシャリストを育成するという観点から高校の専門教育はどうあるべきなのか、またその次に進むための基礎を重視する部分であるのかどうか、そうしたところをきちんと押さえる必要があると感じた。そうした方々をまた県の公共職業訓練校等で受け入れて、時代のニーズに合わせて世の中に出していく、そういう仕事を私どもで担当していきたいと思っている。

(委員) 資料 p 7 の学科別の進路状況で、学科により、すぐ就職して社会に出る子どもたちと、大学や専修学校等へ進学する子と、進み方がかなり違うのだと感じた。例えば農業や工業では、すぐ社会の一員として職業人として生きていく教育が必要であろうし、商業や家庭では高校の教育だけでは満足しない、新たに上の学校に進んでさらに資格や力をつけて社会に出ようという思考をされているのかと感じた。中学校の段階ですでに自己推薦制ということで、どの学校に行くかどの教育を受けるか、自分の将来像を描きながら高校に進学し、また高校でいろいろなキャリア教育等を受けて、それぞれで広がった専門の道を見出すような、そんな意識が生まれてくるのかと思う。したがって、学科によっては大学や専門学校等とも連携をしていく必要があるのではないかと感じた。

(委員) 他の産業分野と農業とは異質である。農業分野は今、高齢化率が60数%になり、若い就農者がどうしても欲しい、手を広げて待っている産業分野である。やる気と元気さえあれば就農できる分野であり、これからの日本が生き抜いていくためには、食の確保、農業の再生が不可欠である。今、30代半ばで岡山に来て就農される方が増えている。収入も上がっており、自分で努力すれば努力するだけ報いてくれる産業は何かということについて30代半ばで目覚めて来られる方が多い。高校教育の中で、本当に生き甲斐がある職業という観点から、日本が生きていくため、地域が活性化していくために、農業という産業分野が不可欠な分野であるということをよく教えていただき、そして現場も知っていただきたい。

(委員) 中学校は義務教育最終段階であるが、今は100%近く高校に進学しているので、中学校でのキャリア教育、進路指導では、働くというのはどういうことかとか、世の中にはどんな仕事があるのか、自分はどんな仕事に向いているのかを考えさせ、そして実際に仕事を体験する職場体験活動を行い、自分の進路先を決めていくという過程をとっている。高校や将来社会へ出たときに、夢を持たせて出していくかないといけないと思う。最近、就職率が悪いとか世の中景気が悪いとか社会が大変であることは重々理解をしながらも、高校に行く専門的なことを学ぶことは楽しい、こんなことができるのか、こういう素晴らしいものができていることに驚き胸躍らせていく。実際に働いておられる方に講師となって来ていただくが、大変だけど働くってこういうことが素晴らしいとか、自分の会社はこういうことで頑張っているというようなことを子どもたちに聞かせてやりたいと思っている。職場体験も3日ではあるが、社会の中の「本物に触れる」という機会をいろんな形で子どもたちに持たせ、未来は明るいという気持ちを持たせておかないといけないと思う。

(会長) 皆様方から御意見をいただき、いろいろ参考になるところがあった。我々企業にとっても、日本の将来がどうあるべきかということがある程度は出てこない夢が語れない。日本がこれからどういうふうを目指そうが、基礎基本というのは変わらないと思う。人間能力として最低の行動力があり、持久

力があり、知恵も多少ありということであれば、それで対処していける能力があると思う。

いろいろな国に行って比較してみると、日本人の方がやる気が大分落ちる。裕福過ぎた感じがする。ハングリー精神がある国とない国とでは大きな違いがある。絶えず厳しい態度で教育というものをやっていかないと、甘やかしてはいかけないというような気がしている。

(3) その他

(会 長) 専門委員会の委員の選出について、事務局からお願いします。

(事務局) 専門委員等を開催するに当たって、今就職が厳しいということだけではなく、少し中長期的な視点でやらせていただいたらと考えている。②で「産業界との連携」施策という手段が出過ぎているのではないかという御意見もいただいた。産業界との連携だけでなく、大学等もある。それぞれの地域で、産業界との連携した具体的なやり方についても検討、審議させていただければありがたい。

「スペシャリスト像とは」ということも、専門委員会でやらせていただきたいと考える。専門委員会の方向性については、各専門学科、そして総合学科の代表、専門学校等の方にも入っていただくような形でお願いできたらと思っているが、この審議会でもいただいた御意見等を直接専門委員会で審議させていただくためにも、専門委員会の委員長、副委員長には、本審議会の委員の中から2名入っていただきたいと思っているので、御検討をお願いしたい。

(会 長) 事務局のほうから、専門委員会にこの本会議の方から2名の方に入っていただきたいということであるが、専門的なことでもあるので私の方から御指名させていただいてよいか。

(事務局) 他の委員については、会長さんにも相談させていただいて最終的に決めさせていただこうと思う。そして、2月に1回目の専門委員会を開催させていただき、本日の御意見を基に、具体的な調査研究をし、また第2回の審議会を設けたいと思う。

(会 長) アンケートについて、事務局から具体的な素案があれば提示願いたい。

(事務局) 今の段階で素案をお配りしているので御覧いただきたい。学校側と企業側とでギャップがあるとすればどういうところにあるのか等を検証してみたいと考え、検討している。企業アンケートでは、県産業教育振興会の会員各社の中から200社ほどを抽出して調査できればと考えている。

(委 員) 企業へのアンケートの2番で、高校生の採用実績ということだが、本年度、来年度は特別の状況でもあるのではないかと思う。したがって、2年間だけで企業の採用意識というものの把握が十分なのか。もう少しスパンを広くする必要があるのでないかと思う。

(委 員) 学校の方のアンケートで、公立高校全部とあるが、私立、あるいは専門学校のようなのも調査してみると何か違うパターンが出て、参考になるのではないかと思う。

(会 長) 「今後10年間程度の高校生の採用方針」が出てくるだろうか。医療産業など、安定した産業だったら出るかもしれないが、産業の方も随時変化するところはなかなか難しいと思う。

(事務局) 御意見をいただいたことを参考に検討させていただき、一月中には実施させていただきたいと考えている。

(委 員) フィンランドという国が非常に教育レベルが高く、IT分野でノキアなど、非常に成長している。それはやはり、小さな頃から国を愛する心、そういう産業教育、高校教育だけではなくて、もっと以前の小学校や中学校の頃からの教育ということと連動していると思う。

(会 長) これからの日本をどうするか、どうすべきかという目的意識がきちっとないと愛国心は生まれてこない。郷土を愛して日本を愛して、そのために我々

の職業も成り立っているんだと。その職業をどうやって日本を支えていくかということを考えていく生徒が増えれば増えるほど日本の将来は安定する。

(委員) 企業アンケートで、集計についても、置かれている状況によってどういう状況なのかということがわかるようにお願いしたい。

(事務局) 郷土を愛する心など、いろいろな面で幼児教育など小さい頃からの教育が大事であるという御意見をいただいた。教育委員会では教育振興基本計画を作っており、その中で具体的な計画も示している。指導課の方でも、学力向上検討委員会や道徳教育について考える会ということも、それぞれの専門ごとにやっている。この会でもそういった御意見をいただきながら、そういうところへも還元したいと考える。

(会長) 貴重な御意見を賜り、これからの教育に反映させていただきたいと思っている。

6 その他

(事務局) 第2回の審議会の開催について

7 閉会

○挨拶(副会長)

- ・本日は初会合だったが、今日ほどそれぞれからいろいろなお話が出たのも非常に珍しいのではないかと思う。
- ・今までの延長ではあり得ない時代になっているという気がする。中長期の方に目を向けた格好で専門委員会の方にも考えていただくというようにしないと、まとまりようがないという気がする。
- ・皆様方の貴重な御意見が、今後の岡山県の産業教育のためになる、そして、それがまた県の今後の発展になるというということを心から願い、そしてそういう気持ちでまた審議会をやっていただけたらと思う。